祝　辞（福島町商工会創立五十周年記念式典）

秀峰千軒の峰々は、かすかな雪渓を残し、鮮やかで豊かな緑の輪郭を見せております。

津軽の山々を望み、時に山背の風を吹きつける海峡の色合いも、少しずつ夏の青さを増してきました。

「福島町商工会創立五十周年」、誠におめでとうございます。

今日、この好き日、記念すべき五十年の式典を迎えられました小笠原会長様をはじめ、商工会関係者の皆様に感謝と敬意の気持ちを込めて心からお祝いとお慶びを申し上げます。

私自身、青年期に商工会に勤務し、初代会長矢野様をはじめ役職員・会員の皆様に温かいご指導をいただき、育てていただいた者として感慨深いものがあります。

青年部の創設、夜店（歩行者天国）、ミカンの共同仕入れ、年末年始大売り出し、吉岡地区豪雨被害者へ

の畳配給、しいたけの共同出荷、商工会館建設、失業保険・労災保険・税務申告等の事務と、想い出は尽きません。

私にとって無我夢中の二十代であり、社会人としての基礎基本を、商工会で学び、鍛えていただいたことに間違いなくあらためて深く感謝申し上げます。

商工会法に基づく、経営改善普及事業を中心とした商工会の活動展開は、戦後の混乱の中、先行き不透明で不安を抱え苦悩する地域中小企業者に大きな勇気と希望を与え、地域産業経済団体の中核としての役割を果たし、地域の発展に多大な貢献を積み重ねてまいりました。

商工会創立から幾多の変遷を経た五十年後の福島の現状は、大きく変貌、隔世の感があります。しかし、世紀の大事業「青函トンネル工事」をまともに受入、終了した後の影響は大きく、ポストトンネルの適切な対策も叶わず、時代の流れに翻弄され、過疎少子高齢化に歯止めがきかず、衰退が続く状況に、

町政運営の一端を担う者としてその結果責任を痛感しております。

ピーク一万三千九百人の人口が、五千二百人台になったという現実、時代の変遷とともに大きく変化する住民ニーズは、道路網の整備、車社会、通信・流通手段の多様化等により、消費経済、医療福祉、教育文化、レジャー等多くの面で町外への依存が高くなっている実情、生活基盤の充実により住民サービスへの期待が大きく変化している状況を、充分咀嚼して進むべき方向を見極めなければなりません。

長く続いた自民党政権が崩壊、民主党の新しい政権がスタートしましたが、尚、混迷が続いております。

国と地方の関係については、国が主導する地方分権から地方自治体が主体的に実践する「地方主権」へと大きく方針転換しました。目指す地方制度は、従来のような画一的なものではなく、キーワードは、長い歴史や文化・風土に育てられ、永々として築き上げ

られてきた地域の暮らしに合った「多様な選択」であります。私達が心がけるべきことは、補助を頼り、主体的に自律できない依存からの「脱却」であり、自立し自ら範を示す先行モデルの「実践」であり、勇気をもって現況を打破する意識の「共有」であります。受身で待つのではなく、「自由と責任」を持った完全な自治体を目指し徹底的な意識改革を進めなければなりません。

商工会もまた、創立に懸けた関係者の志を再確認し、貴重な五十年の歴史をステップに、会員のため、地域のため、産業団体の牽引役として、新たな展開に向かい英断を持って大きく羽ばたくことを心からご祈念し祝辞といたします。

平成二十二年六月十八日

福島町議会

議長　溝部幸基